

# 平成30年4月

## 鳥取市・松江市は中核市へ



対談する深澤鳥取市長（写真左）と松浦松江市長（写真右） 場所：仁風閣

平成30年4月からの本市の中核市移行が決定しました。同じく4月から中核市となる松江市の松浦市長にお越しいただき、中核市移行後の展望などについて深澤市長と語っていただきました。

問 本庁舎中核市推進局 ☎0857-20-3125 0857-20-3040  
問 本庁舎広報室 ☎0857-20-3159 0857-20-3056

### 中核市誕生が決まって

**深澤** 中核市誕生が決定したこと、たいへんうれしく思っています。鳥取市では、平成26年6月に中核市へ移行することを表明し、「鳥取市中核市移行推進本部」を設置して県との協議を重ねてきました。その結果、県から市へ約2600の事務が移譲されることになり、あわせて、東部4町の保健所業務についても県から委託を



ふかざわ よしひこ 深澤 義彦 鳥取市長  
平成26年4月～ 現在1期目

受けて行います。中核市移行は、将来に向けて飛躍・発展していくため、基礎自治体としての基盤を強化、市民サービスの向上を図っていくとともに、鳥取市の存在感を広く発信する重要な取り組みです。「いつまでも暮らしたい 誰もが暮らしたくなる 自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」をめざして、さまざまな課題に取り組みたいと考えています。

**松浦** 鳥取市が中核市をめざすという話をお聞きし、松江市も中核市移行をめざして県との話し合いを始めました。市議会では、中核市に移行してもあまりメリットがないのではないかとといった議論もありましたが、最後は市議会からも後押しをいただき、今回中核市



まつうら まさたか 松浦 正敬 松江市長  
平成12年6月～ 現在6期目

います。その課題を持ち寄りながらぜひ一緒に頑張っていききたいと思っております。

**深澤** 人口減少や少子高齢化といったたいへん難しい課題に対応していかなければならないですが、これからの時代は一つの自治体で完結するということはだんだん少なくなり、福祉や観光、経済の活性化の面で複数の自治体と一緒にやって連携をしながら、その自治体、また圏域が発展していくように取り組んでいかなければならないと思っております。松江市とはこれからも連携をとりながら、両市はもとより山陰地方が将来に向かってますます魅力ある圏域であるために、がんばっていかねばならないと思っております。その一つの大きな契機が中核市の移行と考えています。

※対談内容を抜粋・要約して掲載しています。

**深澤** 従来は県で担当している保健所と市の保健センターの業務を一体的に行い、例えば、子育て支援、健康づくりなどでサービスの質の向上を図っていくことができます。また、中核市としての存在感がこれから高まっていきますので、インフラ整備なども進んでいくことが期待されますし、経済活動などもこれからはますます活発になっていくことも予想されます。

**松浦** 今まで県と市のサービスがわかれていたことが、市で一貫してできるため利便性が向上しています。例えば、一般廃棄物の処理は従来から市で行ってききましたが、産業廃棄物処理は県が権限を持っています。不法投棄があった場合に一般廃棄物か産業廃棄物かわからないことがあり、市で不法投棄を処理しようと思っても「産業廃棄物だから県の権限」でなかなか進まないことがありました。今後は産業廃棄物処理が市の権限になり、一緒に処理することができそうです。市民のみなさんに対するサービスが格段に充実していくと思います。

### 中核市にふさわしい職員像

職員のみなさんは仕事が増

移行が決定して非常にうれしく思います。中核市は全国でも数が少なく、注目される存在になると思います。サービスのさらに充実させ、市民のみなさんに本当に喜んでいただける、松江市に住んで良かったと言ってもらえるようなまことにしていかなければいけないと思います。

**【松江市】**  
 合併日：平成17年3月31日  
 合併市町村：松江市、鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、穴道町、八束町、東出雲町の1市7町1村  
 ※東出雲町は平成23年8月1日合併  
 人口：203,914人  
 世帯数：89,130世帯  
 面積：572.99平方キロメートル

**【鳥取市】**  
 合併日：平成16年11月1日  
 合併市町村：鳥取市、国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町の1市6町2村  
 人口：190,001人  
 世帯数：79,804世帯  
 面積：765.31平方キロメートル

人口・世帯数は平成29年11月1日現在